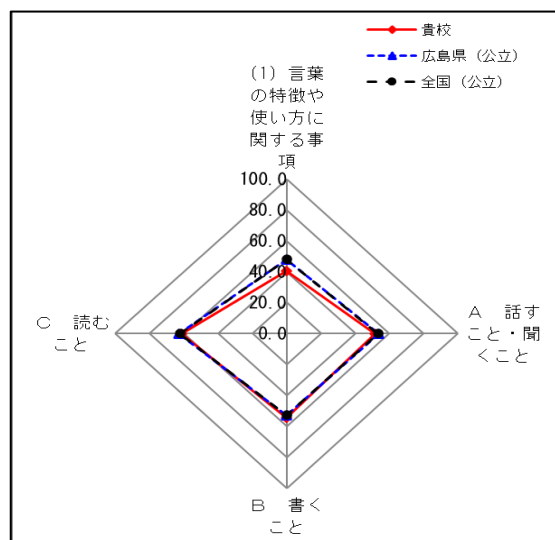


国 語 (解答数 1 1 7 名)

〈正答率〉

	平均正答率	平均正答数
七尾中	53%	7.4/ 14
広島県	55%	7.6/ 14
全国	54.3%	7.6/ 14

〈学習指導要領の内容ごとの平均正答率〉



重点課題と原因

○漢字・語句に関する知識を問う問題の正答率が低い。(1ニ七尾25.2%, 広島県33.9%/3三七尾56.3%, 広島県62.0%)
 ○発表するためのスライドにどのような工夫をすべきか考えを書く問題について、条件を満たして書けていない。(七尾16.0%, 広島県25.2%)
 ○文章の構成や展開について根拠を明確にして考えを書く問題について、無解答が多い。(七尾17.6%, 広島県18.6%)

課題に対する指導方法等の改善

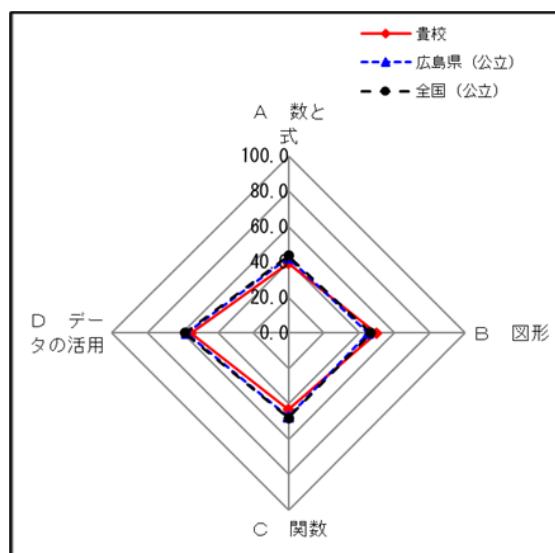
自分の考えを書く問題に関しては、問題の条件に沿うように解答できていない人が多い。また、解答類型「その他」の解答数が多いことから、問題の意味を理解していない可能性がある。このことから、課題の内容を正しく把握し、必要な情報を判断して活用する力をつける必要がある。生徒が主体的に課題解決に取り組み、条件を満たしながら考えをスライドや文章にまとめる授業を、単元の構成に入れていくよう、改善していく。

数 学 (解答数 1 1 7 名)

〈正答率〉

	平均正答率	平均正答数
七尾中	46%	6.9/ 15
広島県	47%	7.1/ 15
全国	48.3%	7.2/ 15

〈学習指導要領の内容ごとの平均正答率〉



重点課題と原因

○無答率が高かった問題
 5:11.0%(県8.3%)・6(1):5.1%(県4.0%)
 8(2):33.1%(県30.5%)
 ○正答率が低かった問題
 1(1):16.9%(県33.7%)・5:27.1%(県40.8%)
 8(1):64.4%(県71.9%)
 ○数学的用語がわからない、問題の意味を捉えるのが難しい問題に対して諦めてしまっている。

課題に対する指導方法等の改善

○「なぜ勉強するのか」「今の内容が何につながるのか」といった学習の必要性を感じさせないまま、やらされる学習にしまっていた。そのため、少し考えてわからない問題はすぐに模範解答を写してしまい、熟考しないまま完成させることを目標にしている生徒が多い。
 ○日常生活に関わる問題や、将来のどんな力につながるのかの説明の場を増やすことで、目的を持って主体的に問題に取り組めるようにする。

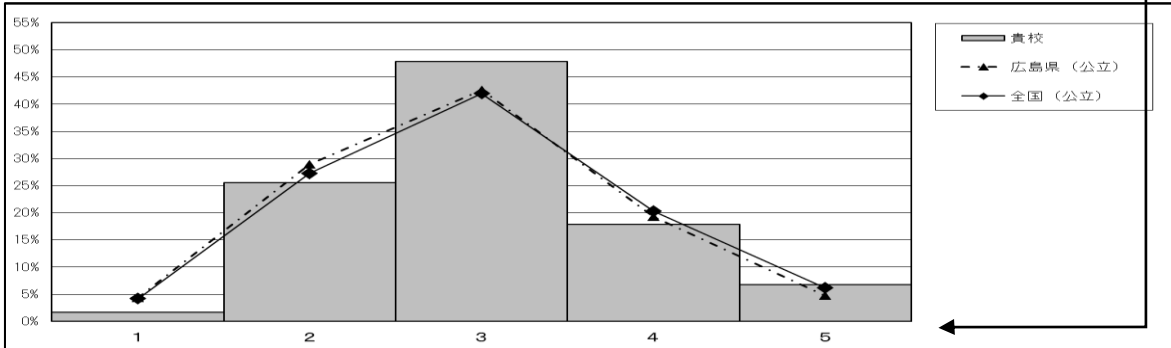
理 科 （解答数 1 1 7 名）

〈IRTスコアと正答数〉 IRTスコア…500を基準とする

	平均IRTスコア	平均正答数
七尾中	505	3.2/ 6
広島県	495	2.9/ 6
全国	503	2.9/ 6

IRTバンド	1	⇒	IRTスコア	～350
	2	⇒	IRTスコア	350 ～450
	3	⇒	IRTスコア	450 ～550
	4	⇒	IRTスコア	550 ～650
	5	⇒	IRTスコア	650 ～

〈IRTバンド分布グラフ〉



重点課題と原因

○電気回路に関する知識を活用して、設定した仮説が正しい場合の実験結果を予想することが難しい。（七尾29.9%, 広島県34.6%）
○身近な電気回路に抵抗がある理由を選択することが難しい。（七尾75.2%, 広島県83.8%）

課題に対する指導方法等の改善

生物や粒子を柱とする領域では県平均を超える正解率となっているが、エネルギーの領域において、特に実験の仮説や考察に課題があると言える。生徒自身が方法や目的を考えて実験を行い、結果を通して探究していく授業を充実させたい。

生活・学習に関する調査 （回答数 1 1 7 名）

質問A 1、2年の時の授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか。

選択肢	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	(%)
七尾中	36.1	52.1	10.9	0.8	
広島県	24.2	53.9	18.5	2.8	
全国	23.4	54.3	19.0	2.7	

質問B 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができているか。

	39.5	47.9	8.4	2.5	選択肢は上記に同じ
七尾中	36.3	48.5	10.7	2.4	
広島県	35.1	49.6	10.5	2.5	
全国					

質問C 自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思うか。

	53.8	36.1	7.6	0.8	選択肢は上記に同じ
七尾中	38.2	45.5	12.9	2.7	
広島県	36.4	47.2	12.8	2.7	
全国					

実態分析と今後の取り組み

質問Aより、生徒の9割は主体的に学習課題に取り組み、自分で考えて解決しようとしていることが分かる。また、質問Cより、タブレットを用いてレポートや発表資料を作成することが日常的にできている実態があると言える。質問Bより、話し合い活動を意図的に行っていると分かるが、話し合いの成果を個別の学習に還元する場を増やし、各教科の個々の学力向上につなげることが必要である。